



スが多い一方で、費用は50000円程度。そのほか、部分入れ歯を使う場合もある。植歯は、インプラントには植歯がしかず一本数十万円かかるのに対し、ブリッジはさし歯と一緒に、保険内でできるものもある。しかし保険外だと結局インプラントと同じ値段になる場合も。歯間の歯を合わせて、二本分になるからだ。

ブリッジにしても、インプラントを入れて直すことはできる。しかしその場合には、本来必要なかった歯を削ってしまっただことになる。どの方法にするかを子供が自分で選べるようになるまでは、飯海で夜泊りしておくのが賢明かもしれない。



がん治療より 難しい!? インプラントの 執刀医選び

さし歯としては一番お薦めというインプラントだが、問題点も多い。(1)どこで治療を受けるかよく吟味し、信頼できる歯科医を選んだほうがいい。(2)強調するのは、昭和大学歯科口腔外科の新任准教授、高いレベルの技術を持つ歯科医が多い。一方で、とんでもない治療による被害も目立つというのだ。

二〇〇七年、東京都中央区の歯科医院で、インプラント治療を受けた70歳の女性が、ドリルがアゴを貫通し、口の中の動脈から大量出血を起して死亡する事故があった。死亡事故は異例であるものの、なかには、人工歯根を入れる手術をするときに動脈が損傷され、噴血しそ

うになるケースもある。失敗したことで費が湧けてしまったら、唇の神経の一部がまひしてしまうかもしれない。間違っただけに人工歯根を埋め込まれ、執刀し損け句、大学病院を訪れる人も後を絶たない。子供が治療を受けるとすれば、医師も事故に遭わずに済むのはもちろん、きれいに仕上げてほしいのが親心。何を基準に歯科医を選べばよいのだろうか。

「やはり、リスクも含めて説明をしてくれるかどうか、非常に大切です」と飯谷教授。さらに、治療前には必ずしも手振りをとりに入れるかコンピュータでシミュレーションしているかも基準になるという。手振りで行う歯科医が、というところから数が多い。個室やほかの患者がいない場所を実施するのも患者への配慮が感じられる。

心臓病やがんの治療では、併発病が考慮されるが、インプラント治療ではあまりリアルでやらないという。二回

進手術の要因で、目を覆いながらやるような治療する歯科医もいるし、認定医でなくても腕のいい先生もいる。「一番重要なのは、自分が安心にはならない」と、インプラント治療のメトリックは、健康な歯を削らないで済み、見栄えも噛み応えも自分の歯とほとんど同じである点だ。逆にデメリットは、人工歯根を埋め込むための外科手術が必要なこと。

「最終的には、患者さんのために治療を行う倫理観があり、信頼できる歯科医かどうか、見極めたいதாகしかりませぬ。患者さんのほうも「運球眼」を磨いてほしいと思います」(飯谷教授)

